

CASE 1

ブレインリハビリで認知症周辺症状が改善した例

自宅での転倒を機にショートステイ利用後、施設入所となった 90 歳男性の方です。コミュニケーションは良好でしたが、入所当初は車いすから急に立ち上がったたり、滑り落ちたり、不穏や離脱もよくあり介護職員も頭を悩ませていました。ブレインリハビリテーション開始当初は上手くいかない、時々不穏になりイライラされることもありましたが、回数をこなすうち正解も増えるようになり少しずつ効果がでてきました。



現在ではリハビリ室まで本人様一人で来ていただきスタッフへの挨拶や他利用者様との会話、コミュニケーションなど積極的になり、1日のスケジュールもご自身で管理されています。以前見られた徘徊などの問題行動などもなくなり、居室から離れる際には必ず介護職員に行先を告げてから行かれています。介護職員からも安心して見ていただけるとの声も聞かれます。

平成 29 年 6 月